

教員活動状況報告書

提出日：令和 5 年 3 月 16 日

所 属： 生命・環境科 学部 環境科 学科

氏 名：遠藤 治 職位：教授

役 職：

I ティーチング・ポートフォリオ

1. 教育の責任（教育活動の範囲）

（教育活動について何をやっているのか：役職担当・主要担当科目リスト（必修，選択）（受講者数）（学部向け，大学院向け）（學理データ活用）

教師として何に責任を負っているかを明確にし，自分が担当している授業科目に関して数行で説明する。（分量の目安：2～5行（80字～200字）（科目表以外））

※分量（字数）はあくまで目安ですので，超えても構いません。内容を優先して下さい。（以下同じ）

私自身、麻布大学の卒業生であり、在学中から外研生として研修した厚生省国立公衆衛生院（現厚生労働省国立保健医療科学院）も含めて、恩師・諸先輩方の薫陶を受けた。このことが就職後の公衆衛生院等での職務に反映されたと強く感じている。したがって、この自分自身の体験も踏まえて、特に自身が専門としてきた生活環境衛生分野において、本学の建学精神である「学理の討究と誠実なる実践」のできる人材養成を行いたいと考えている。

科目名	学科・専攻	必，選，自	配当年次	受講者数
地球環境科学	環境	必	1	78
大気環境学	環境	必	2	52
環境衛生学	環境・食品	必・選	2・3	49・57
環境衛生学実習	環境	必	2	51
リサーチローテーション	環境	必	2	54
環境毒性学同実習	環境	必	3	73
環境リスク学同演習	環境	必	3	71
科学技術英語	環境	選	3	6
卒業論文	環境	選必	3・4	7・6

2. 教育の理念（育てたい学生像，あり方，信念）

1. で説明した教育面での責任を基にしながら自分の教育理念に基づいて自分の教育アプ

ローチについてまとめる。(自分の教育アプローチの説明：なぜやっているのか、自らの信念、価値、目指すもの) (分量の目安：8～12 行 (320 字～480 字))

本学は東京獣医講習所を出発点とするが、時代とともに進化し、現在「地球共生系～人と動物と環境の共生をめざして～」を標榜している。

私は 2018～19 年度に環境科学科長を拝命したが、オープンキャンパス等で学科紹介の際、「人には人のお医者さん、動物には動物のお医者さん（獣医師）、そして環境には環境のお医者さん」と表現させていただいた。環境科学科の目指すべきは「環境のお医者さん」であると考えます。

医療・獣医療に様々な専門医（内科、外科、精神科など）があるように、「環境のお医者さん」にも「空気環境」「水環境」「環境分析」「環境衛生」「環境調査」「環境行政」など様々な専門分野が存在する。私は「大気環境学」で「空気環境」を、「環境衛生学」「環境毒性学・同実習」等で「環境衛生」分野を分担していると自認している。

3. 教育の方法（理念を実現するための考え方、方法）

教育の目的と目標（これまでの教育経験においていつも行っていること。重要視していること。自分の教育を特徴づける方法） (分量の目安：15～24 行 (600 字～960 字))

環境科学科（環境のお医者さん）は、獣医学科（動物のお医者さん＝獣医師）や臨床検査術学科（広義で人のお医者さん＝臨床検査技師）と比べ、目標は不明確となりやすい。それゆえ昨今の社会情勢の中で、学生の自己肯定観が相対的に低いように感じる。

（学生に対して）肯定できる自己を発見してほしいと思っており、（教員として）そのきっかけを与えられる教員でありたいと念じている。

そのため重視しているのは、一言でいえば「一期一会」であり、その「きっかけ作り」として、「基本・基礎」を重要視している。

講義科目では「専門用語・略語」の正しい理解を、実習科目では「基本操作」の習得を重視している。

アクティブラーニングについての取組

「環境リスク学・同演習」の中で関本准教授や特任助教の先生方の協力を得て、グループワークを導入している。新しい試みなので中には戸惑いを隠せない学生もいるが、授業評価では一定の評価も受けているので、特に実習や演習の科目で活用したいと考えている。

ICT の教育への活用

令和4年度は原則対面授業となったが、新型コロナウイルス感染症の収束とまではいかず、前年に引き続き、研究室の定例ゼミや授業の一部でオンラインを活用した。今後対面を中心としたいが、内容により効果的な手段として ICT も活用していきたい。

4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）（分量の目安：15～24 行（600 字～960 字））

現在の授業実践・教授手法をどのように改善していますか。

（①から⑤まで個別に記載又は①から⑤までまとめて記載ください）

①教育（授業，実習）の創意工夫（A）

2022 年度は、3 年ぶりに原則対面方式となったので、できる限り従来方式に戻したが、授業内容によってはオンライン方式も効果的に思えたので、前年度までに作成した「オンデマンド資料」、特に「動画」も活用し、工夫した。

②学生の理解度の把握（B）

学理ミニテストの導入で定期試験以外でも成績評価が可能となった。半面過去 2 年間のコロナ禍の影響か、対面による定期試験成績は以前より学生間の格差が大きくなったように感じられた。

③学生の自学自習を促すための工夫（B）

前年度同様、これまでに作成した MP4 動画などを事前に学理にアップした。

また（感染症などにより出席停止の学生用に作成した）オンデマンド用授業録画を復習兼用とし、すべての配布資料を授業期間終了（前期なら前期終了時）まで継続して学理にアップした。

④学生とのコミュニケーション(質問への対応等)（B）

原則対面授業となったが、学理の「ディスカッション」機能等を利用して、質疑応答時間を確保した。

⑤双方向授業への工夫（B）

上記のようなアプローチは行っているが、具体的な成果としては現れていないように感じている。

※A（十分実施している） B（実施しているが十分でない） C（うまく取り組めていない）

⑥国家試験対策としてどのような取組をしましたか。（V 学科，M 学科の教員の方のみ記載してください。）

5.学生授業評価（分量の目安：4～7行（160字～280字））

①授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。

学理でアンケート結果を逐次確認すると同時に、学理ディスカッション機能などを通じて定期的にアンケート活用を促した。

② ①の結果はどうでしたか。

サイレントマジョリティーなのか、個別コメント等は少なかった。

③ ②を踏まえて次年度はどのように取組めますか。

5月以降感染症分類も緩和されるようなので、ここ一兩年難しかった個々への目配せも含め、より積極的な活用を促したい。

6.学生の学修成果（分量の目安：4～7行（160字～280字））

①学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。

（参考となる取組については、学内で共有させていただく予定です。）

ここ数年 ICT 化に翻弄されているように感じている。確かに便利で魅力的なものだが、所詮「情報通信技術」であり、ツールのひとつでしかない。スマホは使えても必要なパソコン・スキルのない（そもそも興味すらない）学生や、自然環境問題に高い関心・意識を持つ学生（ナチュラリスト？）には、むしろアナログな対応が必要のように感じることもある。原点回帰で、多少不便でも、アナログだが個別に丁寧な対応が必要と感じている。残念ながら具体的な妙案はまだない。

②教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価

少し前になるが、2019年9月に大学連携講座の一環として県立相模原高校から3名の学生を引き受けた。課題は学生からの持ち込みで「果物の皮で汚れを落とす」というものであったが、後日（2020年3月18日）行われた高大一貫協議会で県立相模原高校の担当教員から学生の意欲向上など高評価をいただいた。

県立相模原高校は、偏差値も高く、偶然であったかもしれないが、「一期一会」を標榜する者としては大変嬉しい評価であった。

コロナ禍で難しいとは思いますが、志願者拡充の意味でも、高校との連携は不可欠に思う。

7. 指導力向上のための取組（FD 研究会参加状況）（分量の目安：1～2 行（40 字～80 字））

可能な限り積極的に参加した。

8. 今後の目標（理念の実現に向かう今後のマイルストーン）

教育活動に関する今後の目標を記載してください。短期的な目標と長期的な目標を分けて記載してもかまいません。（分量の目安：3～6 行（120 字～240 字））

定年まで残り 2 年なので、短期目標となるが、「一期一会」を考えると、特に 3 年次以降研究室に配属された学生に対して一層丁寧な指導を心がけたい。

9. 添付資料（根拠資料）（※）資料名のみ

※資料については非公開扱いのものもありますので、資料名のみを記載してください。

- ・ 2022 年度生命・環境科学部担当授業時間数の確認について（教務課配布資料）
- ・ 授業シラバス
- ・ FD 研修「ティーチング・ポートフォリオ作成につながるティーチング・ポートフォリオ・チャートの作成ワークショップ」配布資料（2020.11.9 および 12.23 研修資料）
- ・ FD 研修「ティーチング・ポートフォリオ（ブラッシュアップ研修）」（2022 年度版）
- ・ 学理授業評価アンケート
- ・ 相模原高等学校大学連携講座レポート
- ・ 2019 年度第 1 回高大一貫協議会資料

●FD 研修事後課題（ピアレビューによるブラッシュアップ）の実施

☒ 有	☐ 無
------------------------------------	-------------------------

該当を○で囲む

●下線部以外は今回新規追加した事項を示す。

参考

※ ティーチング・ポートフォリオにおける自己記述を裏付けるエビデンス例

（「実践ティーチング・ポートフォリオ スタータブック」（大阪府立大学高専ティーチング・ポートフォリオ研究会 編）から引用）

（自ら作成するもの）

1. 授業に関するもの

シラバス、小テスト、宿題、レポート課題、試験問題、教材（配布資料、パワーポイント資料など）

2. 教育改善に関するもの

（教育に直接貢献する研究，FD プログラムなどへの参加記録，教育の工夫を示すもの（複数年のシラバス等），教育活動関連の補助金の獲得

（他者から提供されるもの）

1. 学生から

授業評価データ，授業に関するコメント（授業評価の自由記述やメールのやりとり等），卒業生から授業や教育についてのコメント

2. 同僚から

授業参観の講評，作成教材についての意見，同僚のサポート実績

3. 大学／学会等から

教育に関する表彰，教育手法等に関する講演の記録及び招聘の要請書類，カリキュラムやコースの設計などについての評価

（教育/学習の成果）

授業科目受講前と受講後の試験成績の変化，学生の小論文・報告書，学生のレポートの「優秀」「平均的」「平均以下」の例，特に優秀な学生についての記録，指導学生の学会発表などの成果，学生の進路選択への影響についての事実，学生のレポートの改善の軌跡